IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

愛知県埋蔵文化財センター創立 20 周年

平成18年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会

1　埋蔵文化財展

A展覧会名

「発掘されたムラと宝」

-いにしえの暮らしと技を探る-

B開催期間

平成18年6月24日(土)から9月24日(日)まで

C会　場

愛知県陶磁資料館 本館 第1・第2展示室、
特別展示室

D主　催

愛知県陶磁資料館
(財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
文化庁
愛知県教育委員会
中日新聞社

E後　援

愛知高速交通株式会社

F開催趣旨

本展覧会では創立20周年を迎えた愛知県埋蔵文化財センターの記念事業として、本センターが調査を多く実施した尾張地域を中心に、原始時代から近世にかけての集落遺跡とやきものを中心とした名品を紹介し、当地域の暮らしと技の移り変わりを概観した。また、弥生時代の集落遺跡として全国的に著名な「朝日遺跡」(清須市ほか)の発掘調査をもとに、弥生時代の土器・石器・骨角器・金属器・木製品の製作技術について、最新の調査・研究成果を踏まえて展示紹介した。



ポスター





開催式　オープニングセレモニー

G展示構成

ａムラとやきものの移り変わり (第 1 展示室)

【ムラと暮らしのうつわ】

尾張地域における集落遺跡について、縄文時代から江戸時代までの各時代あたり 1~2 遺跡を厳選。イラストや写真・図面パネルと出土遺物によって、集落の景観と、日常的に用いられた暮らしの器の移り変わりを紹介した。

紹介遺跡・遺物

・縄文時代 : 権現山遺跡 (岩倉市)

・弥生時代 : 阿弥陀寺遺跡 (甚目寺町)・一色青海遺跡 (稲沢市)

・古墳時代 : 廻間遺跡 (清須市)・中之郷北遺跡 (北名古屋市)

・古代 (律令期): 大毛池田遺跡・大毛沖遺跡・門間沼遺跡 (一宮市)

・中世 : 土田遺跡 (清須市)・阿弥陀寺遺跡 (甚目寺町)

・近世 : 上中・西屋敷遺跡 (稲沢市)





第一展示室

【やきものの技と美】

弥生時代のパレススタイル土器や古代・中世の猿投・瀬戸・渥美・常滑窯など、愛知ゆかりの焼きものについて、重要文化財をはじめとする優品を展示紹介。ムラ における日常の器とは異なる、やきものの技と美の世界を概観した。

主要紹介作品

・縄文時代 : 透文付唐草文深鉢 (東光寺遺跡 (幸田町) 出土)[愛知県教育委員会]

・弥生時代 : 赤彩櫛目文壺 (朝日遺跡 (清須市) 出土)[愛知県教育委員会] 櫛目文台付壺 (安城市付近出土)[愛知県陶磁資料館]

・古墳時代 : 縄蓆文壺 (志賀公園遺跡 (名古屋市) 出土)[愛知県教育委員会] 脚付円窓付壺 (志賀公園遺跡 (名古屋市) 出土)[愛知県教育委員会]

・古代 (律令期):[重要文化財] 猿投・灰釉多口瓶 (黒笹 36 号窯跡 (三好町) 出土)[愛知県陶磁資料館] 猿投・緑釉手付瓶 [東京国立博物館]

・中世 :[重要文化財] 渥美・灰釉芦鷺文三耳壺 [愛知県陶磁資料館] 常滑・甕 (個人蔵・愛知県陶磁資料館寄託) [重要文化財] 瀬戸・灰釉牡丹唐草文壺 [東京国立博物館] [重要美術品] 瀬戸・鉄釉巴文瓶子 [愛知県陶磁資料館]

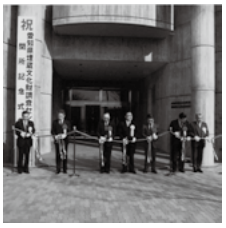
・近世 : 有田・色絵婦人像 [愛知県陶磁資料館] 有田・色絵婦人坐像 (名古屋城三の丸遺跡 (名古屋市) 出土 [愛知県教育委員会]



図録表表紙

愛知県埋蔵文化財センター 20 年の軌跡

昭和 56 年　4月1日　財団法人愛知県教育サービスセンターに埋蔵文化財調査部新設
昭和 60 年　4月1日　財団法人愛知県埋蔵文化財センター設立
昭和 62 年 12 月1日　愛知県が海部郡弥富町（現弥富市）に愛知県埋蔵文化財調査センターを設置
事務所を愛知県埋蔵文化財調査センター内に移転
平成　7年　4月1日　愛知県埋蔵文化財センター設立 10 周年
平成 11 年　4月1日　機構改革により財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センターとなる
平成 17 年　9月1日　機構改革により財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センターとなる


センター開所式



設立 10 周年記念式典


発掘調査（上中・西屋敷遺跡）


現地説明会（権現山遺跡）

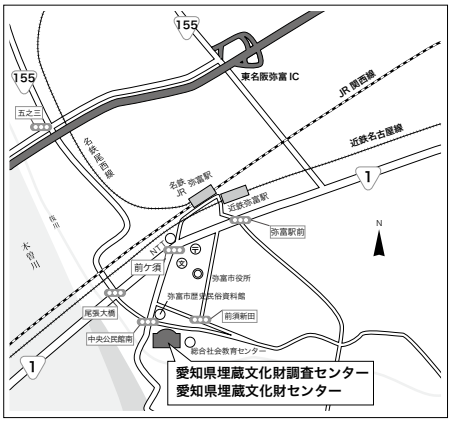
朝日遺跡調査の軌跡


1985 年


1988 年


1999 年


2005 年



愛知県埋蔵文化財センター所在地

第 1 展示室パネルより

縄文時代のムラ



人々が集い、長く住まうことが始まった。
まわりの土地も少し高いところに、
小さな草葺き屋根の建物をいくつか建てて住んだ。

古代のムラ



川のほとりに堤防とまっすぐな道をつくり、家を建てた。
家の中には竈がつくられ、
外側の地面近くから煙が吐き出されるようになった。

弥生時代のムラ



大きな建物が建てられた。
地面に長い柱を立て、屋根を高くかかげている。
倉庫だろうか？　神殿だろうか？

中世のムラ



碁盤の目のように道をつくり、溝を掘った。
地面に長い柱を立て、高い壁を建てた家を並べた。
屋敷の中も、屋敷と屋敷の間もゆったりとしている。

古墳時代のムラ



小さな建物を、数棟ずつのまとまりにして建てた。
屋根の向きがそろっている建物の集まりには、
一つの「家族」が住まっているのかもしれない。

近世のムラ

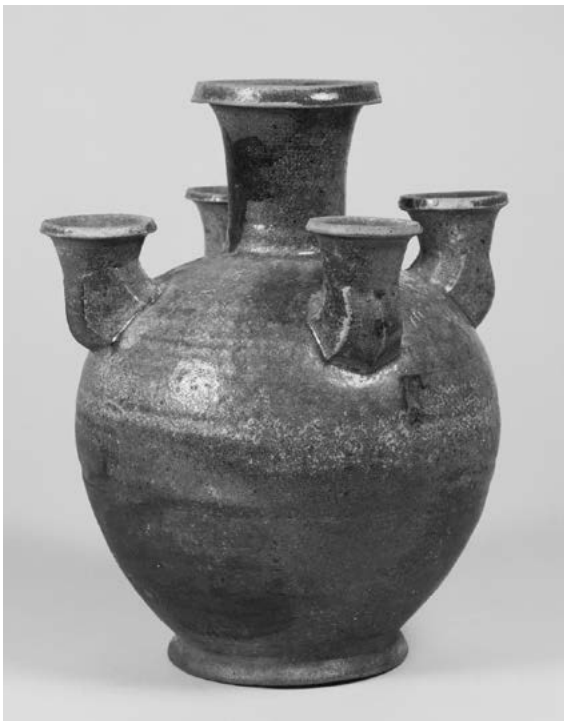


屋敷どおしが近くに集まってきた。
林や生け垣で囲まれた屋敷には、
地面に礎石を据え、柱を建てた家が建ちはじめた。

【やきものの技と美】出展資料



櫛目文台付壺
弥生時代後期　伝・安城市付近出土
愛知県陶磁資料館蔵



重要文化財　灰釉多口瓶　猿投
平安時代初期（8 世紀末）　三好町黒笹 36 号窯跡出土
愛知県陶磁資料館蔵



重要文化財　灰釉葦鷺文三耳壺　渥美
平安時代末期（12 世紀）
愛知県陶磁資料館蔵



色絵婦人立像　有田・柿右衛門様式
江戸時代（1670-90 年代）
愛知県陶磁資料館蔵

ｂ平成 17 年度 愛知県埋蔵文化財センター新出土品展 (第 2 展示室)

概　要

平成 17 年度に愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った遺跡について、写真パネルや出土遺物によって展示紹介した。

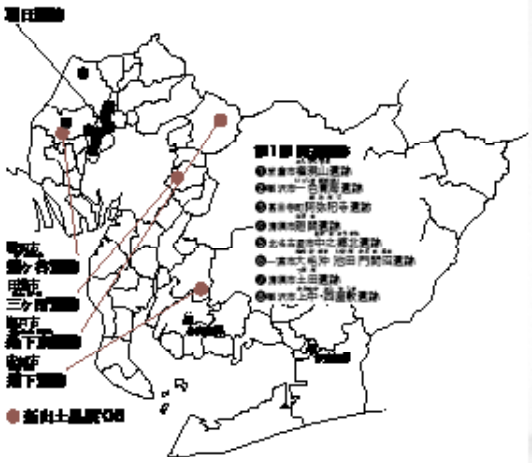
遺　跡

須ヶ谷遺跡（稲沢市）
姫下遺跡（安城市）
三ヶ所遺跡（日進市）
桑下東窯跡（瀬戸市）



展示会場で配布したリーフレットより







c 弥生’モノ作り 朝日遺跡のハンディクラフト
(特別展示室)

概　要

朝日遺跡の調査成果を踏まえ、石器・木器・骨角器・土器・青銅器など、弥生時代のさまざまな道具について、製品と製作法を展示。弥生時代屈指の技術が集積された朝日遺跡の重要性を紹介するとともに、モノ作りの原点を考える。

展示構成

テーマ 1 朝日遺跡の概要と集落構造

テーマ 2 さまざまなモノ作り

- 石斧工房
- 木器工房
- 骨角器工房
- 製陶工房 (黒い土器・赤い土器)
- 絵画工房 (鹿・人面)
- 青銅器工房
- 玉作工房

テーマ 3 東海地域のモノ作り

- 朝日ブランドの品々と分布
- 各地のモノ作り

テーマ 4 パレスの大広間

赤い土器を至近距離で見学できるように、赤い土器と白い土器をそれぞれ 100 点ほどオープン展示で並べた。







パレスの大広間

朝日遺跡の発掘調査史

調査年次	調査主体	発掘区(地点)	報告書・文献
1929	加藤　務	貝殻山貝塚地点	愛知縣の石器時代所収1930
1929	鳥居龍蔵	貝殻山貝塚地点ほか	
1948	紅村　弘	貝殻山貝塚地点	東海の先史遺跡所収1963
1950	愛知学芸大学	貝殻山貝塚地点	東海の先史遺跡所収1963
1956	名古屋大学	貝殻山貝塚地点	日本考古学年報7所収1957
1960	紅村　弘	竹村貝塚地点	春日村村史所収1961
1964	久永春男	二反地貝塚地点	日本考古学協会第31回総会発表要旨所収1965他
1966	久永春男	二反地貝塚地点	日本考古学協会第31回総会発表要旨所収1965他
1966	愛知工業高校	寅ヶ島第二貝塚地点	「寅ヶ島第二貝塚」1968
1969	県教育委員会	環状２号線用地内	「朝日貝塚予備調査報告」1970
1971	県教育委員会	貝殻山貝塚地点	「貝殻山貝塚調査報告」1972他
1971	県教育委員会	環状２号線用地内	「朝日貝塚予備調査報告2」1972
1972	春日村教育委員会	寅ヶ島貝塚地点付近	「春日村の遺跡 第1集」1974
1972-1979	県教育委員会	環状２号線用地内	「朝日遺跡群発掘調査中間概報1～8」1973～1981他
1978	県教育委員会	Ⅳ6L22ほか14地点	「朝日遺跡群範囲確認緊急調査報告」1979
1978	朝日遺跡群発掘調査会	長先・見寄町地区(名古屋市第1次)	「朝日遺跡群中沼町地区発掘調査概要報告書」1979
1978	清洲町教育委員会	松本地区	「貝殻山2」(愛知県清洲貝殻山貝塚資料館)1980
1979	名古屋市教育委員会	長先・見寄町地区(名古屋市第2次)	「朝日遺跡群長先・見寄町地区発掘調査概要報告書」1980
1980	朝日遺跡群発掘調査団	愛宕地区	「朝日遺跡群愛宕地区発掘調査報告書」1981
1981	愛知県教育ｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	環状２号線用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1985	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	環状２号線用地内ほか	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1986	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	国道22号線用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1986	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字貝塚101	愛知県埋蔵文化財情報3
1987	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	環状２号線用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1988	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	朝日J用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1988	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字愛宕65	愛知県埋蔵文化財情報5
1988	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字愛宕236	愛知県埋蔵文化財情報5
1989	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	朝日J用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
1992	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字貝塚117	愛知県埋蔵文化財情報9
1992	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字愛宕226	愛知県埋蔵文化財情報9
1993	春日町教育委員会	春日町大字下之郷字長久寺23-1	愛知県埋蔵文化財情報10
1994	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字貝塚40	愛知県埋蔵文化財情報11
1995	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	新資料館用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第83集
1996	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	新資料館用地内	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第83集
1997	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字貝塚71・72	愛知県埋蔵文化財情報14
1998	名古屋市教育委員会	中沼町地区(名古屋市第3次)	朝日遺跡第3・4次発掘調査報告書
1998	名古屋市教育委員会	見寄町地区(名古屋市第4次)	朝日遺跡第3・4次発掘調査報告書
1998	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H18刊行予定
1999	名古屋市教育委員会	長先・中沼町地区(名古屋市第5次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
1999	名古屋市教育委員会	中沼町地区(名古屋市第6次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
1999	名古屋市教育委員会	長先町地区(名古屋市第7次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
1999	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H18刊行予定
1999	清洲町教育委員会	清洲町大字朝日字貝塚地内	愛知県埋蔵文化財情報16
1999	(株)パスコ	第３次西区中沼町付近	(第３次西区中沼町付近下水道築造工事他関連)
2000	名古屋市教育委員会	中沼町地区(名古屋市第8次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
2000	名古屋市教育委員会	長先町地区(名古屋市第9次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
2000	名古屋市教育委員会	見寄町地区(名古屋市第10次)	埋蔵文化財調査報告書36(朝日遺跡ほか)
2001	名古屋市教委(ﾊﾟｽｺ)	市営平田荘地区(名古屋市第11次)	朝日遺跡第11次発掘調査報告書
2001	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H18刊行予定
2002	名古屋市教委(ﾊﾟｽｺ)	市営平田荘地区(名古屋市第12次)	朝日遺跡第12次発掘調査報告書
2002	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H18刊行予定
2002	(株)パスコ	第３次西区平田西部地区	愛知県埋蔵文化財情報19 (第３次平田西部雨水幹線下水道築造工事関連)
2003	名古屋市教育委員会	市営平田荘地区(名古屋市第13次)	埋蔵文化財調査報告書54(朝日遺跡第13・14・15次)
2003	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H18刊行予定
2003	(株)パスコ	第３次西区平田西部地区	愛知県埋蔵文化財情報20(第３次平田西部雨水準幹線下水道築造工事関連)
2004	名古屋市教育委員会	市営平田荘地区(名古屋市第14次)	埋蔵文化財調査報告書54(朝日遺跡第13・14・15次)
2004	名古屋市教育委員会	市営平田荘地区(名古屋市第15次)	埋蔵文化財調査報告書54(朝日遺跡第13・14・15次)
2004	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H20刊行予定
2005	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H20刊行予定
2006	愛知県埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	清洲JCT用地内	H20刊行予定

展示パネルより

【弥生’モノ作り】出展資料











<< 製陶工房 >>

朝日遺跡では弥生中期に黒い土器が、弥生後期に赤い土器が好んでつくられました。黒い土器・赤い土器の典型はそれぞれ「貝田町式」・「山中式」と呼ばれています。

イラストの土器は弥生後期の赤い土器を製作している様子です。この赤い土器は、古代ギリシアのクノッソス宮殿出土の宮廷式 (Palace Style) になぞらえて、「パレススタイル土器」とも呼 ばれています。





<< 木器工房 >>

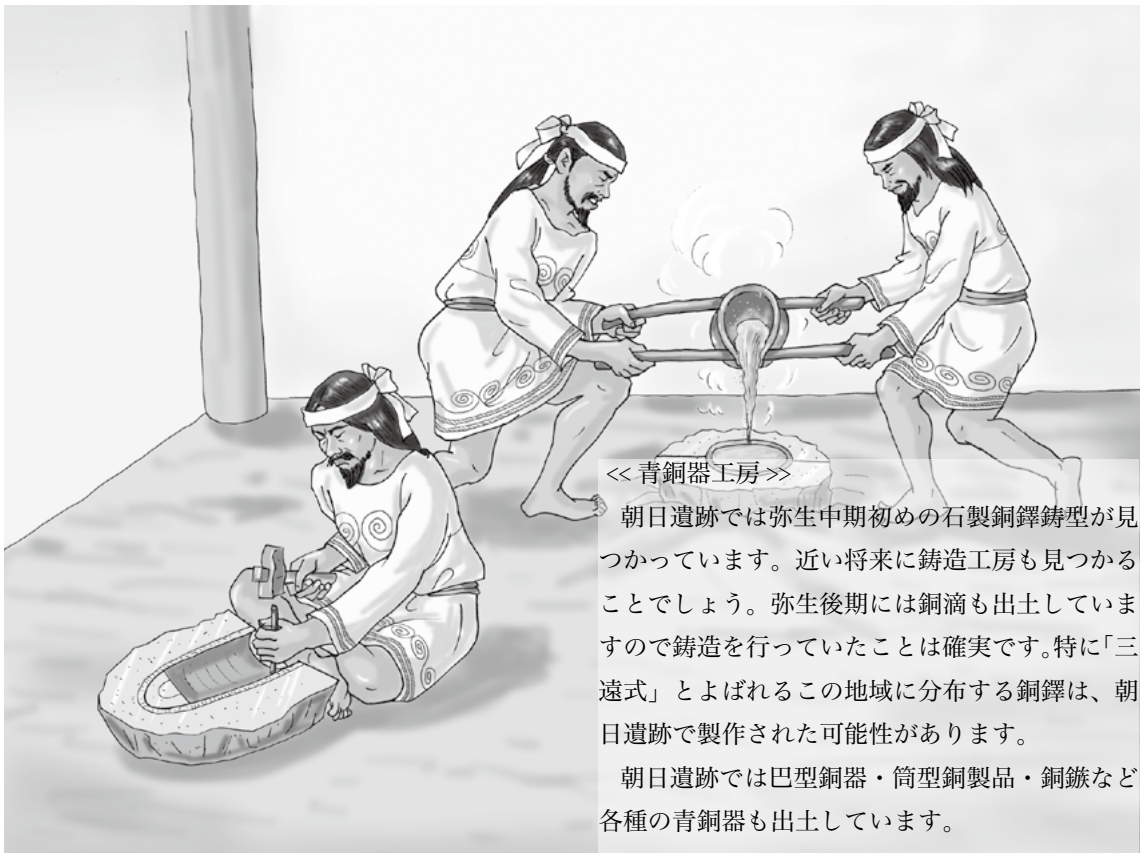
弥生時代の木器には、鋤・鍬などの農具、高杯や鉢などの容器、機織具、田舟・丸木舟などの運搬具があります。

農具は不可欠な道具なので特別な工房で作られることはありませんでしたが、飾り付けた容器や把手をもつ容器など珍しい品々は特別な工房で製作されたのでしょう。



<< 玉作工房 >>

朝日遺跡では弥生中期初めの玉作工房が複数見つかっています。同時にいくつの工房が操業していたかはわかりませんが、少人数で時間をかけて勾玉や管玉を作っていたようです。勾玉原石の翡翠は新潟県の糸魚川下流域産、原石を切り離す道具の施溝具の紅簾石片岩は紀伊半島産のものです。玉原石だけでなく道具も遠方から運ばれています。おそらく、玉作工人も遠方から招かれた人たちなのでしょう。この玉作りを掌握していたのが大型方形周溝墓の被葬者でしょうか。



<< 青銅器工房 >>

朝日遺跡では弥生中期初めの石製銅鐸鋳型が見つかっています。近い将来に鋳造工房も見つかることでしょう。弥生後期には銅滴も出土していますので鋳造を行っていたことは確実です。特に「三遠式」とよばれるこの地域に分布する銅鐸は、朝日遺跡で製作された可能性があります。

朝日遺跡では巴型銅器・筒型銅製品・銅鏃など各種の青銅器も出土しています。

２　埋蔵文化財講演会





A 日時

7 月 23 日 (日)

a 講演会 : 午後 2 時から午後 3 時まで

b 座談会 : 午後 3 時から午後 4 時まで

B 会場

愛知県陶磁資料館 講堂

C 演題

弥生都市と「モノ」づくり

D 講師

a 講演会

広瀬和雄氏 (国立歴史民俗博物館教授)

b 座談会

司会 : 赤塚次郎 (愛知県埋蔵文化財センター)

パネリスト : 広瀬和雄氏

蔭山誠一 (愛知県埋蔵文化財センター) ・宮腰健司 (同)

参加者数 160 名



３　その他の関連事業

A 体験プログラム

a「石器の使い心地」
7 月 30 日 (日)
磨製石斧で木を削り、穴をあける。
石刃で皮を切り、石錐で穴をあけ、しおりを作る。
参加者数：午前 14 名、午後 16 名

b「パレス壺の製作」
8 月 13 日 (日)
パレススタイルの土器を成形し、着色する。
参加者数：午前 25 名、午後 16 名

c「骨角器の製作」
8 月 27 日 (日)
下呂石製の刃器を使い、骨角器を製作した。
参加者数：午前 20 名、午後 23 名








B　体験型学習とギャラリートーク

体験型学習は、8 月 1 日～ 31 日の期間に、特別展示室前のスペースを利用して行った。

「弥生石器を使う」

レプリカの弥生石器を使って丸太を削る。

「弥生土器の文様を描く」

粘土に貝殻や櫛などを使って、文様を描く。

ギャラリートークは、7 月 29 日・8 月 12 日・8 月 26 日の午前・午後に、展示企画者 3 名が展示解説を行った。合計 60 名ほどの参加があった。



C　その他

体験プログラム「パレス壺の製作」のオプションとして、野焼きによる土器焼成を 8 月 19 日に実施した。







